

# 公益財団法人 日本骨髄バンク 第 61 回 業務執行会議 議事録

日 時： 令和元年 5 月 13 日（月） 18：00～18：20  
場 所： 廣瀬第 2 ビル 地下会議室  
出 席： 小寺 良尚（理事長）、加藤 俊一（副理事長）、佐藤 敏信（副理事長）  
金森 平和（理事）、高梨 美乃子（同）、橋本 明子（同）  
小野 高史（監事）  
欠 席： 浅野 史郎（理事）、鈴木 利治（同）、高橋 聡（同）、谷口 修一（同）  
陪 席： 村角 真央（厚生労働省 健康局難病対策課移植医療対策推進室）  
大久保 英彦（広報推進委員）  
傍 聴 者： 2 名  
事 務 局： 松菌 正人（事務局長）、五月女 忠雄（総務部長）、小島 勝（広報渉外部長）  
小瀧 美加（移植調整部長 兼 新規事業部長）、折原 勝己（ドナーコーディネーター部長）、  
渡邊 善久（総務部参事兼 TL）、小川 みどり（移植調整部 TL）、吉川 亜子（ドナーコー  
ディネーター部 指導研修 TL）、関 由夏（関東地区事務局地区代表）、上原 淳（総務部）  
(順不同、敬称略)

## 1. 開会

開会にあたり小寺理事長が挨拶した。

## 2. 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第 6 条により本業務執行会議が成立した。

## 3. 議長選出

業務執行会議運営規則第 5 条により業務執行会議の議長は理事長が当たることとされており、小寺理事長が議長に選出された。

## 4. 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は業務執行会議運営規則第 8 条により議長及び出席した副理事長がこれに記名、押印しなければならないとされており、小寺理事長、加藤副理事長、佐藤副理事長がこれに当たるとされた。

## 5. 議事録確認

第 60 回業務執行会議の議事録案を全会一致で了承した。

[議 事]

## 6. 協議事項（敬称略）

### (1) 平成 30 年度事業報告の原案提示

五月女総務部長が資料に基づき説明した。

全体の説明をするとⅠとして概況、Ⅱとして管理部門、Ⅲとして事業活動がある。事業活動が普及啓発事業と連絡調整事業に分かれている。本日は概況について説明する。各部門に

については後程ご覧いただき、ご意見があれば事務局にお知らせいただきたい。本日は原案であるので、本日議論いただいた内容や、後程いただいたご意見をまとめて次回に完成版を提示する。また事務局で都度手直しをしているので、先週送付したものから直っている部分も若干ある。

日本骨髄バンク（以下、当法人という）は平成30年度（以下、本年度という）の事業計画に基づき「普及啓発事業」と「連絡調整事業」を推進した。

1. ドナー登録者数である。本年度の新規ドナー登録者は4万9151人となり、前年度に比べ1万4161人増加した。登録者数は50万9263人となった。登録窓口別の内訳は、①献血併行型登録会が5126回実施で2万5439人、②日本赤十字社献血ルームなど固定窓口が2万1686人、③集団登録会が577人、④保健所その他が1449人であった。

2. 移植数と患者登録数である。当法人が仲介した非血縁者間の造血幹細胞移植は計1214件となり、前年度より27件減少した。累計移植数は2万3002件に達した。患者登録数は国内2212人、海外591人の計2803人だった。国内ドナーから国内患者への提供は1206件、海外ドナーから国内患者への提供は3件、国内ドナーから海外患者への提供は5件であった。国内患者の移植率、これは同期間の新規患者登録数と移植数の比率であるが54.7%であった。

3. 事業の概況（1）組織運営である。ピーク時と比べて移植件数が減少しており、適切な財政運営に努めた。退職者の発生に対応して、職員の採用を実施した。継続的な個人情報保護対策の一環として「標的型サイバー攻撃に対する模擬訓練」を外注して職員向けに実施した。（2）普及啓発事業である。若年層を軸としたドナー登録の拡大に向け、ACジャパンのキャンペーンや大学での登録会、語りべ派遣等を実施した。絵本朗読会を通じて小学生から高校生を対象に骨髄バンクや命の大切さを伝えた。企業のドナー休暇や自治体による提供ドナー助成といった社会的支援制度の周知に努めた。公式ホームページをリニューアルし、若年層に向けて動画やアニメを多用したスペシャルサイトを開設した。動画投稿サイト「YouTube」公式チャンネルと公式Facebook、twitterで随時情報発信した。各地でドナー登録の推進力となる「骨髄バンク推進連絡会議」の設置推進と再構築を働きかけた。（3）連絡調整事業である。コーディネート期間短縮に向けた施策を、造血幹細胞移植推進拠点病院（以下、拠点病院という）や厚生労働省（以下、厚労省という）の研究班などと連携して検討した。コーディネート開始ドナー人数を本年度より、初回検索ドナー数最大10人を開始、また、患者側が希望する移植最適日での移植実施実現に向け引き続き調整業務を実施した。昨年度に引き続き「造血幹細胞移植支援システム」構築を各関係者と協力して進めた。（4）であるが、昨年度は個人情報の事案が発生したため独立して項目を設けた。8月、採取施設の医師に送付すべき書類のうち、移植患者情報が記載された書類を誤って骨髄提供予定のドナーに送付するという事案が発生した。厚生労働省移植医療対策推進室に報告を行い、11月20日に記者会見とプレスリリースを行った。同様事案の再発防止を図るため、個人情報の発出業務を中心に即時実施可能な対策を実施するとともに、外部の有識者を委員とする「個人情報の取り扱いに関する検討委員会」を設置した。同委員会での議論をもとに対策を実施したが、1月及び2月にも個人情報に関する紛失とファックスの誤送信の事案が発生した。事案の重大性に鑑み再発防止策の検討と実施に注力したが、業務への影響も大きく、来年度も継続する必要がある。

以上の説明の後、意見交換が行われ、全会一致で承認された。

(主な意見)

- <加藤> 今回はそれほど問題ないと思う。送付された資料には池江選手のことがあったと思うが削除したのか。
- <五月女> 個人名については削除した。
- <加藤> それで良いと思う。告白という言葉は公表というニュアンスだと思った。
- <小寺> 3頁の(3)に拠点病院が主催する会議に参加と書いてある。その上の(1)や(2)は具体的にいつどこであったのかが書いている。拠点病院も書いた方が良いのではないか。
- <五月女> 複数あるので書いていなかった。列挙する形でよろしいか。
- <小寺> 上は列挙して書いている。どこで開かれているかは記録に残して置いた方が良い。
- <金森> まだ時期が早いかもしれないが、普及啓発事業で若年層を軸としたドナー登録拡大と謳っているの、いずれドナー登録者の中央値や平均年齢など、どういう形が良いのかわからないが、若年層をターゲットにシフトしているのだというのを強調するのであれば、やはり実際に登録された方の年齢がどのように変わっているかを資料として残した方が良い。
- <小寺> それは事業報告の参考資料に入るのか。
- <小島> 新規のドナー登録者の平均値という形で出すのが良いのかと思う。どうしても累計になると薄まってしまう。データのある日赤に確認する。
- <小寺> それは出した方が良い。今日は出ていないが決算報告の資料は6月の理事会の前に理事の皆様のところへ行くと考えて良いか。
- <五月女> 今後の決算の予定であるが来週、公認会計士による監査を行う。30日に監事による監査が行われる。その時点で確定となるので、事前にお送りすることができる。
- <小寺> 理事会その場だけで、十分に審議できるかどうかかわからない。予め配布していただくが良い。
- <五月女> 通常通り1週間前に送付する。

## 7. 報告事項(敬称略)

### (1) 地区代表協力医師の委嘱について

吉川ドナーコーディネート部TLが資料に基づき説明した。

地区代表協力医師は2年間の任期で先生方をお願いしている。今回改に2019年4月1日から2021年3月31日までの任期で更新した。前回の先生方と変わらないが、中四国地区で長く地区代表協力医師をしてくださっていた広島大学の小林正夫先生が3月末で退官され地区代表協力医師を辞退された。今回、同じ広島大学の戸辰夫先生を御推薦いただき、戸先生に地区代表協力医師就任の快諾をいただいた。それに合わせて、中四国地区の地区代表の先生方から四国地区の先生がないという意見があり、愛媛県立中央病院が拠点病院となっているが、そこの名和先生に改に地区代表協力医師として就任いただくこととなった。前回までは31名であったが、今回中四国地区が1名増えて全体で32名となった。

(主な意見)

- <小寺> 地区代表医師の先生方には大変お世話になっている。この顔ぶれを見ても大変頼もしい先生方ばかりである。

## (2) 調整医師の新規申請・承認の報告

吉川トナコーデネット部TLが資料に基づき説明した。

平成31年3月30日から平成31年4月26日の期間に新たに申請・承認された調整医師の人数は22名、合計で1098名になった。

## (3) 募金報告

小島広報渉外部長が資料に基づき説明した。

令和元年度4月の結果を報告する。件数は573件、金額は581万5636円で前年度と比較すると件数で184件のプラス、金額で約151万円のプラスであった。大きなところでは、個人から100万円いただいた。団体では理事長に記念式典に行っていたいただいたCHCシステム株式会社から50万円いただいた。

## (4) 移植件数報告

五月女総務部長が資料に基づき説明した。

昨年の事業報告にもあったが2018年度は合計1214件であった。内訳は国内から国内が1206件、海外から国内が3件、国内から海外が5件であった。2019年度4月は合計で105件であった。国内から国内が104件、海外から国内が1件であった。

### (主な意見)

<小寺> 海外から国内の1件は米国か。

<小瀧> NMDPからである。

以 上